

令和8年度 佐賀市立嘉瀬小学校 教育課程

1 学校教育目標

ふるさと嘉瀬を愛する青藍の子の育成～子どもの挑戦を支え、主体性を伸ばしていく学校

2 本年度の重点目標

いきいきと挑戦し、青藍の心(五青藍)を高め、自分磨きをする子どもの育成

3 重点取組内容

(1)学習指導の充実(まなび部)

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、全職員で家庭学習習慣を徹底する。
- ・WEBQUを活用して、安心して学べる環境を整え、主体的、協働的に学ぶ授業づくりに取り組む。
- ・校内研究において、児童の考えを「引き出す」、「つなぐ」手立てを取りながら、自分の考えを表現し、進んで学び合う児童を育成する。
- ・学習状況調査等の結果をふまえ、「問題解決的な学習」や「主体的に学ぶ子どもの姿」について全職員が共通理解し、個別最適な学び、児童主体の授業を展開する。
- ・個別最適な学びのために、一人一台端末を活用できるように、職員研修を行う。
- ・読書習慣の定着や必読図書(かせっ子本だな)などで、読書活動に楽しく取り組ませる。

(2)生徒指導の充実(こころ部)

- ・各月の生活目標を心情面と行動面に分け、年間を通して系統的に指導していく。
- ・予防的生徒指導の視点に基づき、生徒指導体制、教育相談体制を対応方針や役割分担を検討する。
- ・毎月1回、支援を要する児童や生徒指導に関わる問題や事案に関して、情報共有を図り、指導につなげる。
- ・あたきカードを用いて、基本的な生活習慣や規範意識を身につけ、よく考え判断し行動できる子どもを育成する。
- ・WEBQUや毎月のアンケートをもとに担任が学級の全児童と面談を行う期間を設定する。
- ・学級の目標やきまりを児童とともに作り、自分たちの居心地の良い学級を自分たちで作り上げていくことを基本に据えた学級経営を行う。
- ・「人権・同和教育」の視点に基づいた道徳教育の実施、計画的な人権教室の実施。
- ・人権リーダーによる主体的な活動(人権フェスタ、いじめゼロ宣言など)で人権意識の高揚を図る。


(3)特別支援教育の充実(特別支援部)

- ・児童一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難の改善・克服に必要な支援を行う。
- ・支援を要する児童の課題について共通理解を図り、複数職員による支援体制で対応する。
- ・特別支援コーディネーターを中心に特別支援教育の研修会を実施し全職員のスキルアップを図る。
- ・必要に応じSC、特別支援学校、外部機関、行政との連携を図り、ケース会議や支援会議、巡回相談を実施する。
- ・全職員の教室環境・授業・人的環境のUD化への意識を高め、実践を図る。
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しと活用を行う。
- ・WEBQUを活用し学習意欲や対人関係等が苦手な児童の状況の可視化及び個別の合理的配慮を行う。

(4)市民性を育む取組の充実(そだち部)

- ・KSVN(嘉瀬小ボランティアネットワーク)と連携し、地域と共に市民性や郷土愛を持つ、志の高い子供を育てるコミュニティスクールとしての学校づくりを推進する。
- ・嘉瀬町の自然、歴史、伝統・文化を題材とし、地域の人や社会とのかかわりを持ちながら学習する「ふるさと学習」を充実させる。
- ・嘉瀬町が主催する「ふるさと嘉瀬感謝まつり」への参加を通し、地域の方との関係を深め、社会性の育成を図る。
- ・ふるさと学習支援事業を利用した見学や体験学習を実施する。

佐賀市立嘉瀬小学校 令和8年度 グランドデザイン

学校教育目標
ふるさと嘉瀬を愛する青藍の子の育成
目指す学校像
学校・保護者・地域とともに、子どもの挑戦を支え、主体性を伸ばしていく学校
目指す子ども像（重点的に育成を目指す資質・能力）
いきいきと挑戦し、青藍の心（五青藍）を高め、自分磨きをする子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・よく考える子（知）：目標に向かって主体的に学習し、確かな学力を身に付ける ・思いやりのある子（徳）：気持ちのよいあいさつができ、他者を尊重し心豊かによりよい人間関係を築くことができる ・美を求める子（徳）：地域や学校、身の回りの美しさに気付き、よりよい環境を作ろうと行動する ・よく働く子（徳・体）：自ら気づき、行動し、他者と協働しながら活動できる ・たくましい子（体）：生活リズムを確立し、自分の健康・命を守り、たくましく自らを伸長する

自ら知を高め、徳を磨き、体を鍛えることで、主体的に活動し、やり抜く力をつける

何ができるようになるのか (学校教育の基本)	何が身に付いたのか (学習評価を通じた学習指導の改善)
<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学ぶ力 自ら問いを立て、解決に向けて粘り強く取り組む姿勢 ○協働する力（コミュニケーション能力） 多様な考えを持つ他者と協力し、よりよい社会を築こうとする力 ○創造性・思考力 知識を詰め込むだけでなく、それを活用して新しい価値を生み出す力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら問いを見つけ、未知の問題に対しても粘り強く考え、行動する力 ・「なぜそう考えたか」といった思考のプロセスや意欲を評価する ・何を使って何をどう学ぶか自己決定できる環境を整える ○他者と関わり、協力しながらチームで活動する力 ・対話のスキルを習得させ、多様な学びの機会を保障する ○自分独自のアイデアや思考力、目標に向かって取り組む姿勢 ・児童自身が「何ができるようになったか」を自覚し、次の目標を立てることで自己効力感を高める

子どもの実態	子どもの発達をどのように支援するか (配慮を必要とする子どもへの指導)	目指す子どもの姿と教師の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ○決められたことを素直に行うことができる ○自分から進んであいさつができる ○地域とのつながりを大切にし、積極的に体験活動や行事に参加している ○指示や答えを待つ傾向があり、主体性に乏し 	<ul style="list-style-type: none"> ○「分かる」「できる」を実感させるための工夫と環境面の ・視覚情報の活用（写真やイラスト等で手順を視覚化する） ・ICT機器の活用 ・課題の調整 ・感覚過敏や集中力の維持に配慮した物理的な環境を整える ○個別の支援計画と校内支援委員会の活用 ・個別の支援計画を作成し、全職員で支援の方向性を共有し、学校全体や専門機関と協力を 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で考え、自分で決めて、行動する子 (先回りせずに、伴走支援！) ○対話を通して、互いを思いやり認め合う子 (対話の機会を作り、合意形成を促す) ○前向きに挑戦し、新しい価値を生み出す子 (探究的な学習を仕組み、学びを広げる支援を！)

何を学ぶか (教育課程の編成)	どのように学ぶか (教育課程の実施)
<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力 教科等の知識・技能の定着、論理的思考力、情報活用能力（ICT活用） ○豊かな心と健康 失敗を恐れない力、粘り強さ、食の大切さ、基本的な生活習慣 ○探求と地域連携 地域について知り、関連するボランティアや体験学習（米作り、自然体験）を通じて学ぶ、生きて働く知識 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学び 自ら課題を見つけ、対話を通じて解決する、質の高い学習プロセスの実現 ○個別最適な学び 発達段階や一人ひとりの特性に応じた学習環境、宿題や家庭学習の工夫 ○協働的な学び グループ活動や学校行事を通じて他者との協働、ICTを活用した学びの共有

実施するために何が必要か (指導体制の充実、家庭・地域の連携・協働)	
<ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム・マネジメントの実現・指導体制の充実 学習内容の関連付けや時間割の最適化。教職員の研修、教科担任制やチーム指導の充実。 ○体験学習の重視 KSVNをはじめとする地域の人材や施設を教材として活用し、校外学習や自然体験、郷土理解など社会に開かれた教育課程を実現。 ○「PDCAサイクル」の循環 短時間で達成可能な目標を設定し、改善プロセスを可視化する。研究会や校内会議で、明らかになった課題に基いた具体的な改善策の検討。 	
安心・安全を守る	開かれた学校づくり
<ul style="list-style-type: none"> ○「自分も大切・相手も大切」が機能する生徒指導（居場所づくり） ・居場所と絆のある温かい学級づくり・多様な価値に気付く道徳教育の推進 ・いじめ防止基本方針に基づきいじめの未然防止、早期発見、適切な対応 ・教育相談の充実とSOSを出せる子どもの育成 ・QUを活用し、児童理解を深め、適切な教育相談の機会を創出する ○信頼される学校づくり ・学校事故や不祥事の防止のための研修や取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○特色ある教育 地域社会と学校が連携・協働し、郷土愛を育むと共に、未来の創り手となる力を育む。 ○情報発信 学校だよりやHPを通じて、学校の様子や方針を透明性をもって伝える。 ○学校評価 参観日のアンケートや学校評価等で意見を収集し、学校運営に反映させる